

見つめようカンボジア	清川直美 横浜市立宮谷小学校
実践教科：生活・道徳・国語 対象学年：小学2年生	時間数：15時間 対象人数：35名

<実践の目的>

1. 開発途上国の現状を捉え、日本との関わりや国際協力の大切さについて気づく。
2. 子どもたちにカンボジアの文化や生活習慣について伝え、カンボジアについて理解させる。
その上で現状の生活を見つめ直し、国際社会の中で自分にできることは何か考える。
3. グローバル市民として行動する視野を持つことができるようにする。

<授業の構成>

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	カンボジアってどんな国？ ねらい：カンボジアの概要を知り、カンボジアに興味・関心を持つ。	(1) 事前に個々がインターネットや本などを用いてカンボジアのことを調べる。 (2) 学級全体で情報を共有する。	(1) 地球儀 (2) 世界地図 (3) カンボジアと日本の国旗
2	カンボジアの友達へ自分のことを紹介しよう ねらい：自分のことを紹介することで、カンボジアへの親近感を高める。	(1) 子どもたち一人ひとりの写真を撮る。 (2) ワークシートに将来の夢や、メッセージ（質問を含む）を記入する。	(1) ワークシート (2) デジタルカメラ
3	カンボジアの遊びってどんな遊び？！ ねらい：日本にないカンボジアの遊びを体験し、初体験の遊びの楽しさを知る。	(1) カンボジアの子どもたちが使う道具を見て、どんな遊びをするか予想する。 (2) グループ毎にカンボジアの遊びを体験する。	(1) カンボジアで購入した遊び道具 ・インディアカ（羽根けり用） ・ボール（セバタクロー用）
4	カンボジアの遊びをもっと体験しよう！ ねらい：遊びを通し、カンボジアと日本の相互に共通している点を見つける。	(1) カンボジアの子どもたちがどんな遊びをするか映像を見ながら予想する。 (2) ビデオで紹介された中から、実際に幾つかの遊びを体験する。	(1) カンボジアで撮影した子どもたちが様々な遊びに取り組むビデオ (2) カンボジアで購入したクロマー（布）
5	カンボジアの学校の様子をのぞいてみよう！ ねらい：カンボジアの学校の様子を知る。	(1) カンボジアの学校の様子を知る。 (2) 日本や韓国からの援助の実態を知る。	(1) カンボジアで撮影した写真や学校の様子が紹介された書籍 (2) ワークシート
6	〇〇王国だ！お金をたくさん稼ごう！（貿易ゲームに挑戦） ねらい：ゲームを通して世界経済の動きを類似体験する。	(1) 貿易ゲームにグループ毎に取り組む。 (2) 貿易ゲームの振り返りを行い、豊かな国と貧しい国の仕組みについて考える。	(1) 貿易ゲームに必要な道具 （ハサミ・定規・紙・クリップなど） (2) ワークシート

7	カンボジアのお友達からのお手紙を紹介しよう！ ねらい：各々の質問の答えを紹介することで、カンボジアについて理解を深める。	(1) 時限目で記入したワークシートの質問に対する答えを知る。 (2) グループの中から、全体に紹介したい質問を選択し、発表する。	(1) 時限目で作成したワークシート
8	豊かさや貧しさはどうやって決めるのだろうか？ ねらい：豊かさや貧しさは一人ひとり価値観により異なることを知る。	(1) 豊かな国と貧しい国のイメージについて話し合う。 (2) カンボジアが豊かな国か貧しい国か話し合う。	(1) 時限目で作成した2人の児童のワークシート
9	文字が読めなかったり、書けなかったりすると、どんなことが困るのかな？ ねらい：文字が読めない体験活動を通し、活字の大切さに気付く。	(1) 文字が読めないと、一体どんなことが困るか考える。 (2) 文字が読めない体験活動を行う。 (3) ユニセフのビデオを視聴する。	(1) クメール語で書かれたラベルのペットボトルの2本 (2) 英語で書かれた薬の飲み方の指示書 (3) ユニセフのビデオ (4) 男女別識字率比較表
10	学校に行けないと、どんなことが困るのかな？ ねらい：学ぶことの大切さを知る。	(1) 学校に行けないと、どんなことが困るのか話し合う。	(1) ワークシート
11	食べ物がないってどういうことだろう？ ねらい：世界には飢餓で苦しんでいる人がいることを知る。	(1) 世界の飢餓の現状を知るために、飢餓クイズに取り組む。 (2) 飢餓の原因について知る。 (3) 日本の食生活を振り返る。	(1) ハンガーマップ (2) ワールドビジョン ジャパンサマースクール 2010 資料 (3) ワークシート
12	ポウラー君の1日の過ごし方を考えよう。 ねらい：自分とカンボジアの子どもたちの暮らし方を比較する。	(1) 自分の一日の予定を記入した後に、ポウラー君の一日の暮し方を予想する。 (2) ポウラー君の過ごし方を知る。	(1) ポウラー君の写真 (2) ワークシート
13	カンボジアで頑張っている日本人の人達に会ったよ！ ねらい：カンボジアで活躍中の日本人の人達を知る。	(1) カンボジアで活躍している日本人の人達を知る。	(1) カンボジアで出会った日本人の写真 (2) (1)の活動中の写真 (3) ワークシート
14	カンボジアの人にあったかハートを届けよう ねらい：日常生活の些細な変化が国際平和に繋がる事を知る。	(1) 国際社会の中で自分にできることを考える。 (2) 学級全体で思いを共有する。	(1) ワークシート
15	カンボジアの人にあったかハートを届けよう ねらい：グローバル市民としての意識を持たせる。	(1) 自分がカンボジアで頑張る日本人として出来ることを考える。 (2) 自分の思いを発表する。	(1) ワークシート

1.カンボジアってどんな国？

私が夏休みに行くカンボジアってどんな国なのか、まずは子どもたちに興味・関心をもってもらうと事前に調べ学習を行った。インターネットや本などを用いて、子どもたちなりにカンボジアについての情報を集めることで、これからの学習への動機づけと意欲を高めて欲しいと願った。

各自で調べたことを共有し、カンボジアの概要を学級全体で掴むことができた。また、子どもたちが調べている中で疑問に思ったことは、「先生がカンボジアで調べてくるね。」ということにした。

2.カンボジアの友達へ自分のことを紹介しよう～日本から、私のことを紹介します！～

子どもたちにカンボジアを身近な国の一つに感じて欲しいと思い、「カンボジアのお友達にみんなのことを紹介しない？」と投げかけた。遠く異国の事として捉えるのではなく、カンボジアの人との繋がりをを感じるには、自分のことを伝え、相手のことを知ることが一番だと感じたからだ。一人ひとりが自己紹介をしたり、カンボジアの子どもたちへの質問やメッセージをまとめたりした。

3.カンボジアの遊びって、どんな遊び？！

事前に子どもたちが調べ活動をした際に多く挙げられたのが、「休み時間や放課後にどんな遊びをしているのか知りたい」だった。そこで夏休み後の最初の授業でカンボジアの遊びを、まず紹介することにした。

初めに、カンボジアで購入したインディアカとセパタクローのボールを紹介した。子どもたちにこれらの道具はどうやって使うのか尋ねると、セパタクローの方はすぐに正解が出たが「サイ」の方は、なかなか正解が出なかった。

そして、体育館で「サイ」(羽根けり)と「セパタクロー」を体験した。4、5人のグループで行ったが、なかなか難しく子どもたちはあまり続けることはできなかったようだ。しばらく楽しんだ後は、子どもたちはグループごとに「サイ」を使って自分たちで新しい遊び方を自然に考え出して取り組んでいた。(写真1・2参照)

授業の最後にカンボジアでは上手な子どもたちだと、20分ぐらい続けることができることを話す大変驚いていた。



写真1 真ん中の児童が羽根を取ったら交代するルール



写真2 寝ている児童が羽根を取ったら交代するルール

4.カンボジアの遊びをもっと体験しよう！

CPCDO(孤児院)で子どもたちが紹介してくれたカンボジアの遊びを、事前に編集したビデオを用いて、どんな遊びをこれからするのか予想しながらクイズ形式で紹介した。ビデオに映っているカンボジアの子どもたちを観て、「カンボジアの子どもも、元気だね。」「みんな仲良しだね。」ゲームで譲り合っている姿を見て、「優しい子が多いな。偉いね。」などと口ぐちに言っていた。

今回は綱引き、椅子取りゲーム、レアッコンサエン(ハンカチ落としに似たもの)やアラビア(皆で円になって踊るもの)を取り上げた。日本にもある遊びがほとんどで、「日本と同じだね。」「一緒に遊びたいな。」と、異文化でも自分たちと同様の遊びをすることに少し驚いていたようだった。

5. カンボジアの学校の様子をのぞいてみよう！

私自身が実際に訪れたプノンペンの公立小学校とプレイベン小学校教員養成校、そして書籍から選んだ2枚のカンボジアの小学校の写真を比べ、日本の小学校との違いについて話し合った。

写真を見た子どもたちからは、「教室が木で出来ているよ。」「教室にいる人数が、随分多いな。」「屋根が何か、わらみみたいなもので出来ているよ。」などの意見が聞かれた。

そして、プレイベン小学校教員養成校で使われている椅子や机は、日本から贈られたものだとしらせた。また、写真を見せて「教室の真ん中に置かれていた箱の中身は何かな？」とクイズを出した。中身は電子ピアノなのだが、正解した児童はいなかった。私が正解を言うと、「どうして使わないのだろう？」と疑問を出した児童がいたので、今度はそのわけを皆で考えた。子どもたちからは、「音楽の授業がないからかな。」「教室が狭いから、しまっておくんだよ。」「全然使わないんだよ。」などの意見が聞かれた。私が、「韓国のある企業が贈ってくれたんだけど、学校に電気がないので使えないんだって。」と言うと、「信じられない」「そんなことってあるんだ。」と口ぐちに言っていた。



教室の中央に放置されたままの電子ピアノ



日本から送られた机や椅子

6. 〇〇王国だ！お金をたくさん稼ごう！（貿易ゲームに挑戦）

貿易ゲームとは、「貿易」を中心に世界経済の動きを類似体験することによってそこに存在する様々な問題について学び、その解決の道について考えることを目的にしたシュミレーションゲームである。このゲームのねらいとして、

貿易を中心とした世界経済の基本的な仕組みについて理解すること。

自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす様々な問題に気付くこと。

南北格差や環境問題の解決に向けて、国際協力のあり方や私たち一人ひとりの行動について考えることが挙げられる。

上記の様々なねらいがあるが、2年生であることから、世界には経済的に貧しい国と豊かな国があり、ゲーム（貿易）を通して豊かな国はますます豊かになるが、貧しい国はなかなか豊かにならない現状を実感して欲しいと願っていた。

ゲーム終了後、豊かな国とはどんな国が話合った。すると初めから紙や鉛筆・ハサミ・定規・形のシートのある国だということになった。そこで紙が（資源）、ハサミ・定規・形のシート（技術）と呼び、このような国は日本のような先進国と呼ぶことを指導した。

また、初めから紙（資源）が少しあるが、ハサミや定規などの（技術）がない国を開発途上国と呼ぶことを押さえ、カンボジアなどはどこに分類されるのか考えさせた。

私がこのゲームを取りあげたのは、もう一つ意図があった。それは、先進国の援助が一方的なものであってはいけないことを、理解して欲しかったからである。今回の研修を通して、最も強く感じたドナー各国の思いでなく、援助を必要とされている国にとって必要なものこそが「真の援助」であることをなんとか子どもたちに伝えたいと思った。そこで、開発途上国のグループの「ハサミが欲しい」と言っている児童たちに、使用しにくい小さなハサミや歯先がギザギザなハサミをわざと与えた。そこには、製作に適していないハサミでは製作に必要な図形は作れないので、自分にと

って不必要なものは与えられても意味をなさないことを実感させたかった。そして、自分にとって（相手国）意味のないものならば、与えられても援助とは言えないことに繋がりたいと考えた。

しかし、2年生という年齢的なものが私の指導が不適切であった為か、子どもたちにはそこまでの理解は、結果的には難しかったようである。

7. カンボジアのお友達からのお手紙を紹介しよう！

グループに分かれ、私が日本を発つ前に記入したワークシートの中から、各自が質問した問いに対する「カンボジア日本友好学園」の生徒のメッセージを各々紹介した。その中から、学級全体に紹介したいものを一つ選び、カンボジアのことを皆でもっと詳しく知ろうと呼びかけた。ここで出された児童の質問に対する答えがこれからの授業の核となることになる。

1つは、K君がした「カンボジアって豊かな国なの？」に対するYEU君が答えた「はい。そうです。」とNさんがした「カンボジアの学校はどんな学校なんですか？」に対するPHOURN君が答えた「カンボジアは貧しく、開発途上国です。だから政府は学校に寄付する十分なお金がありません。」とう答えた。

この2人の自国に対する相反する答えから、「カンボジアは豊かな国か、それとも貧しい国か」という問いが生まれ、「豊かさや貧しさはどうやって決めるのだろうか？」という課題が生まれた。

日本から、わたしのことを教えてください！



名前	
好きな食べ物	カレーうどん
好きなこと	テニス、ゲーム
しょうゆのゆめ	テニスせんしゅ
カンボジアのお友だちへメッセージ	How is the weather in Cambodia? Is Cambodia a poor country? How many students are there in your school?

Kさんの自己紹介カード

Answer

① The weather in Cambodia is wet and hot.
(カンボジアは雨が多いです)

② Yes, teacher.
(はい)

③ The student is about 44.
(カンボジアには約44人います)

My name is Yeu.
Thanks teacher very much.

YEUさんのK君の質問に対する答え

日本から、わたしのことを教えてください！



名前	
好きな食べ物	カレー
好きなこと	ゲーム
しょうゆのゆめ	ゲーム
カンボジアのお友だちへメッセージ	How is the school in Cambodia? Is it a poor country?

Nさんの自己紹介カード

Name Phourn

Answer

① My school
Students in my school study about science/day and some school are old because my country is a poor and develop country so the government must donate enough money to donate it.

私の学校は1日6時間授業です。
いくつかの学校は古い建物です。
カンボジアは貧しく、
カンボジアの学校は十分な資金がありません。

PHOURN君のNさんの質問に対する答え

8．豊かさや貧しさはどうやって決めるのだろう？

まず児童が現在考えている豊かな国と貧しい国のイメージを出しあった。

豊かな国	貧しい国
・家や学校があること。 ・洋服を誰もが着ていること。 ・材料や技術があること。 ・大きな国であること。 ・お金があること。 ・水や食べ物が十分あること。 ・仕事があること。 ・学校や家に電気が通っていること。	・家や学校がないこと。 ・戦争をしていること。 ・材料や技術がないこと。 ・お金がないこと。 ・文字を書いたり、読めたりしない。 ・水や食べ物がいないこと。 ・仕事がないこと。

豊かな国と貧しい国のイメージを押さえた上で、カンボジアは豊かな国か貧しい国なのかを考えた。すると、学級の35人中33人が貧しい国だと答えた。

そこで、前時に紹介した YEU 君が「カンボジアは豊かな国なのか？」に対する答えを振り返った。子どもたちに「どうして豊かな国だと、YEU 君は答えたのかな？」と考えさせた。すると、

- ・カンボジアの人が親切だから。
- ・みんな仲がいいから。
- ・笑顔が多い人がたくさんいたから、みんな幸せだ。
- ・元気な子どもが多いから。

などの答えが返ってきた。

しかし一方で、PHOURN 君のように、カンボジアが貧しい国だと答える生徒もいることを押さえた。議論を重ねた結果、子どもたちは「その人その人の考え方で、答えは変わる」という答えを導き出した。また、豊かさとは物質的な側面だけでなく、心の豊かさが大切なのだと捉えることができたように感じた。

9．文字が読めなかったり、書けなかったりすると、どんなことが困るのかな？

子どもたちが貧しい国と考える要因に、「人々が文字を書いたり、読めたりしないこと」が挙げられた。また、カンボジアには学校が少ないので、「識字教育はどうなっているのか？」という疑問が生まれた。そこで実際に文字が読めないと、どんなことが困るのか考え話し合った。

その後、文字が読めないことを実際に経験する体験活動を行った。子どもたちは体験を通して、以下のような感想をもったようである。

- ・文字が読めないと大変だと分かりました。
- ・文字が読めないと、こんな思いをすることが初めて分かりました。
- ・文字ってこんなに大切なものなんだと思った。
- ・なんだか分らないものを飲むのは、とても怖いことだと思いました。

最後に、ユニセフの「カンボジアの子どもと未来 ～教育と識字プロジェクト～」を視聴した。このビデオではユニセフが子どもたちの生活向上のため教育を広めている様子や、大人への識字プロジェクトの取り組みなどを紹介したものである。



クメール語で書かれた薬の飲み方を聞く子ども



中身が分からない液の臭いを嗅ぐ子どもたち

10. 学校に行けないと、どんなことが困るのかな？

本学級の子どもたちが考える貧しい国の条件の一つに、「家や学校がないこと」が挙げられた。そこで世界には学校に行きたくても行けない子どもたちが、7,200 万人いることを知らせた。

まず、日本では小学校就学年齢になっても小学校に通っていない児童がほとんどいない自分の周囲の現状を振り返った。その上で、実際に学校に行けなくて一体どんなことが困るのか話し合った。

子どもたちの考えを学級全体でウェビングマップにまとめ、自分だけでなく自分の子どもも頭が良くならず、仕事が見つけにくい現状が生じることが見えてきた。自分が学校に行かないことが、将来的にも貧しさの連鎖を生みだすことを子どもたちは感じたようだ。

11. 食べ物がないってどういうことだろう？

まず、WFP（国連世界食糧計画）から出典されているハンガーマップ（世界の飢餓状況）を提示した。子どもたちに、赤色に近い国ほど食べ物がなく困っている世界の現状を知らせた。そして、「飢餓とは何か」また、飢餓に苦しんでいる人の数などをクイズ形式で取り組み、世界の人々が飢餓で苦しんでいることを理解させた。

そして、世界で作られている穀物の多くを先進国で分け、残りの少ない部分を開発途上国で分け合っている現状を伝えた。日本が1年間で捨てる食べ物の約1,900万トンから半分の量の食べ物を貧しい国に与えれば、世界で困っている人々が助けられることを知らせた。そして、食べ物を捨てる時はどんな時があるか話し合い、日頃の生活を振り返った。授業後の子どもたちの感想は、以下の通りである。

- ・私たちが食べている物をあげて、食べ物がなくて死んでしまう人が少なくなるんだったら、いっぱいあげてみんな同じくらいで生活をしたい。
- ・日本がこんなに食べ物を買ってこんなに捨てているなんて、不思議に思いました。
- ・世界ではこんなに食べ物がない人がいるのに、食べ物を捨ててしまっていて貧しい国がもらえないのはかわいそうだと思いました。



世界の食糧事情不安の現状 2008
FAO 統計データベースより

12. ポウラー君の1日の過ごし方を考えよう。

カンボジアの子どもたちと、日本の子どもたちの過ごし方を比較させることで、両国の違いを肌で感じて欲しいという思いと、子どもたちがカンボジアにより近づいて欲しいという願いがあった。そこで、現在14歳でトモケオ小学校の4年生のポウラー君に焦点を当てた。まず自分の一日の暮らし方を振り返った。そして、ポウラー君の過ごし方をみんなで予想した後に、実際の一日の様子を紹介した。

子どもたちからは、以下のような感想が聞かれた。

- ・朝5時半に水汲みをするとは思いませんでした。
- ・ポウラー君の生活はとても大変だと思いました。
- ・学校に行くのに、1時間もかかるなんてびっくりしました。
- ・カンボジアでは、日本と少し違う暮らし方をしているんだと思いました。
- ・私もこれから、お母さんのお手伝いをもっとしようと思いました。



ポウラー君（写真左側）

13. カンボジアで頑張っている日本人の人達に会ったよ！

私が今回の研修を通して心に響いたのが、カンボジアで頑張っている日本人の人達であった。カンボジアで自分の得意分野や好きなことを生かし、現地の人々と手を取り合いながら活躍していた6名の日本の方を紹介した。

子どもたちは、カンボジアにも日本人がいることにまず驚いた様子であった。そして、実際にカンボジアの人々と手を取り合いながら活動していることに、強い感銘を受けたようである。

子どものワークシート（一部抜粋）

見つけようカンボジア
カンボジアの人のためにできることって何だろう？
2年4組 名前()

①カンボジアでがんばっている日本人で、心にのこった人を書こう！

森本 さん

★わけも書いてみよう！

カンボジアの子どもたちに
お菓子をあげたいから
お菓子を届けたらいいかな
と書いてみた。

②今日のじぎょうのかんそうを書いてみよう。

カンボジアの子どもたちに
お菓子をあげたいから
お菓子を届けたらいいかな
と書いてみた。

クメール伝統織物研究所で働く森本さん
を選択した児童

見つけようカンボジア
カンボジアの人のためにできることって何だろう？
2年4組 名前()

①カンボジアでがんばっている日本人で、心にのこった人を書こう！

シニア海外ボランティアの金子 さん

★わけも書いてみよう！

カンボジアの子どもたちに
お菓子をあげたいから
お菓子を届けたらいいかな
と書いてみた。

②今日のじぎょうのかんそうを書いてみよう。

カンボジアの子どもたちに
お菓子をあげたいから
お菓子を届けたらいいかな
と書いてみた。

シニア海外ボランティアの金子さんを選択
した児童

見つけようカンボジア
カンボジアの人のためにできることって何だろう？
2年4組 名前()

①カンボジアでがんばっている日本人で、心にのこった人を書こう！

日本地雷処理を支援する会 さん

★わけも書いてみよう！

カンボジアの子どもたちに
お菓子をあげたいから
お菓子を届けたらいいかな
と書いてみた。

②今日のじぎょうのかんそうを書いてみよう。

カンボジアの子どもたちに
お菓子をあげたいから
お菓子を届けたらいいかな
と書いてみた。

日本地雷処理を支援する会
(JMAS)の西城さんを選択
した児童

14. カンボジアの人にあったかハートを届けよう ～今の自分に出来ること～

これまでの学習のまとめとして、国際社会の中で自分にできることは何か考え、今回焦点を当てたカンボジアの人々に「今の自分ができていることを考えてみよう」と投げかけた。この学習を通して、子どもたちが自分の日常生活の少しの変化が国際平和に繋がることに気付き、今後の考え方や姿勢の基盤になって欲しいという思いがあった。

子どもたちからは、今の自分に出来ることとして、以下のような考えがあがった。

- ・食べ物を残さないために、給食の嫌いな物も食べるようにする。
- ・ゴミをしっかりと分別する。・水を大切に使う。
- ・落ちている物は自分のゴミでなくても拾ったり、落とした人に届けたりするようにする。
- ・電気をこまめに消すようにする。中休みはなるべく外で遊んで、教室の電気を消す。
- ・ノートが無駄に使わないようにする。
- ・植物を大切に使う。自分が育てている野菜も大事にしたい。
- ・人に優しくして、困っている人がいたら助けたい。
- ・お金の無駄遣いをしない。要らない物は、買わないようにする。
- ・これまでカンボジアについて勉強したことを、できるだけたくさんの人に伝える。
- ・しっかり勉強して、自分の学んだことを将来に生かす。
- ・英語やクメール語をしっかりと勉強したい。
- ・勉強して毎日少しずつ国語や算数をやるようにする。

15. カンボジアの人にあったかハートを届けよう ~これからの自分にできること~

私が今回の研修で出会ったカンボジアで頑張っている日本の人達を紹介した際に、大変感銘を受けた子どもたちだった。

今の自分にできることだけでなく、グローバル市民として一人ひとりが自己を高め、成長することこそが広くは国際平和に繋がっていくのではないかと考えている。そこで、もしも自分がカンボジアで活動する日本人だったら...と一人ひとりが考える授業を最後に設けた。また、実際の自分が取り組まなければならないことも併せて考えていった。

将来子どもたちが、これから様々な道を選択する中で、今日の授業のことをいつか思い出してくれる日があったらと願っている。

子どものワークシート（一部抜粋）

読つたよしのクオリア

カンボジアの人にあったかハートをどきよう！

 2年4組 名前()

① もしもきが、カンボジアでがんばる日本人だったら……
大きくなって サッカーマン として、
カンボジアでこんなことをしてみたい！

カンボジアの空にサッカーボールが
たいでま。
はカンボジアの空にサッカーボールが
たいでま。カンボジアの空にサッカーボールが
たいでま。カンボジアの空にサッカーボールが
たいでま。

② ①の自分になるために、今の自分ができることを書いてみよう。

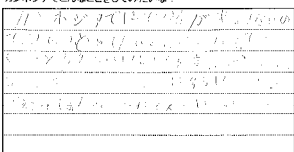
サッカーの練習をする。
サッカーの練習をする。
サッカーの練習をする。
サッカーの練習をする。
サッカーの練習をする。

思つてよいかなどシテ

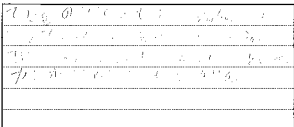
カンボジアの人にあったかハートをどけよう！

 2年4組 名前()

① もしもきみが、カンボジアでがんばる日本人だったら…
大きくなって  として、
カンボジアでこんなことをしてみたい！



② ①の自分になるために、今の自分にできることを書いてみよう。



[illegible]

<成果と課題>

これまで国際理解教育の活動を行う際には、子どもたちがその国を理解し交流することをねらいとし、最終的には日本も世界の一部に過ぎないことに気付かせたいと試行錯誤しながら教育活動を進めてきた。調べ活動やその国で生まれ育った人々とお話を伺う中で、子どもたちは相手国の産業や文化などの表面的な部分は捉えることができるが、その国や国際平和のために何ができるか考え行動を継続していくことは難しい現状があった。

しかし、国際理解教育の最終的な目的はやはり、異文化を認め受け入れる姿勢を育みながら、「今の自分にできることは何か」ということを考え、それを少しずつでも実行する姿勢を育成することだと捉えている。

これまで私が手探り状態で進めてきた国際理解教育では、今の自分に出来ることは何か考える活動が授業の最終的な着地点だった。しかし毎回ほとんどの児童は、これまでの限られた経験から感じた思いやメディア・書籍のメッセージ内容を振り返った表面的な意見が多かったように思う。それならば、もっと人物に焦点を当て相手の国に寄り添って考える活動を通してなら、子どもたちが新たに覚えてくるものがあるのではないかと考えた。

私が出発する前に、多くの子どもたちが事前の調べ活動の成果もあり、カンボジアがどんな国なのか表面的には掴めていたように思う。しかし、子どもたちのカンボジアに対するイメージの多くは、魚の要素が大半をしめていたように感じられた。

確かに日本と物質的な側面だけを比較した際には、ODA や海外からの投資に依存しているカン

ボジアは貧しい国と言えるかもしれない。しかし、そこに生きている人達にとっては、それが日常であり生まれてからの普遍的なものであれば、こちらが考える程の悲壮感はないだろう。自殺者が年間3万人を超え、孤独死が叫ばれる日本も、精神的な面では決して豊かな国とは言えないかもしれない。幸せや豊かさとは、一人ひとりの価値観に基づいて決めるものであって、一見他者からは分からないことが多い。そこに子どもたちに気づいて欲しいと思った。

これまで私は援助と聞くと、現地の人々の生活が改善され「いいこと」だと考える傾向があった。しかし今回の研修で出会ったカンボジアで活躍されている日本人の方々のお話を伺ったり、教室の真ん中に放置されたままの電子ピアノを見たりすることで、真実はどうなのか確かめるには的確な情報を収集したり、現場を見たりして現地の人々の生の声を聞いた上で、自分でじっくり考える必要があると感じた。

以前、国際理解教育の一環として「頑張っているアフリカの人達へ」と題した作文を子どもが書いた際に、ある児童が「アフリカは捨てるものなしと言われている。私達が捨ててしまったタイヤやペットボトルを再利用することで、再び物に命を吹き込んでいる。そんな姿勢を私たちも見習いたい」と記した。ゴミの分別やリサイクルの必要性が叫ばれる日本において、当事者意識を少し変えて考えることで、新たに見えてくる課題や追求すべき問題があるのではないかと考えさせられたことを思い出した。

物事を見極める際には、自分の認識や感覚に縛られず、広い視野で見ていくことが必要不可欠であることを今回の研修や授業を通して改めて強く感じた。明日の日本、強いては世界を、また地球を担っていく子どもたちに、その大切さを今後も伝えていきたいと思う。

今回学習全体を通して子どもたちの学びの様子を見てみると、特に課題として感じたのは貧困や同世代の子どもがどうなっているか切実感をもって考えて欲しいと願ったが、子どもたちは地雷や貧困などの知識への興味・関心が高まっていき情報量だけが増える傾向が見られた。なかなかカンボジアの人へ寄り添った学習展開は難しかったように思う。

しかし児童の中には、学習を通しての感想として、「私は、カンボジアの授業をする前は、日本と同じかと思っていました。でも、日本とまったく違っていました。（中略）これから水を大切にしたい。色々な国があり世界には飢餓になっている人もたくさんいました。私たちは、生きていることが幸せだと思いました。」と記し、今の生活環境がいかに幸せかということに気付いた児童もいた。

<参考資料>

「新・貿易ゲーム 経済のグローバル化を考える」 開発教育協会・神奈川県国際交流協会
「100円からできる国際協力 命とくらしを守る」100円からできる国際協力編集委員会 汐文社
「できることから始めよう！」小林正典（株）草土文化
ワールドビジョンジャパン サマースクール2010 資料 ワールド・ビジョン・ジャパン

ホームページ

スクール・エイド・ジャパン（SAJ）カンボジアの子どもたち

ビデオ

ユニセフ「カンボジアの子どもと未来 ～教育と識字プロジェクト～」